

第5回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録

- 1 日時 令和3年5月19日（水）午後6時30分～午後8時30分
- 2 場所 オンライン
- 3 出席者 野口委員長、長谷川副委員長、齋藤委員、田倉委員、片岡委員、三澤委員、河原委員、江島委員、湯澤委員、田村委員
- 4 事務局 教育振興部長、光が丘図書館長、計画調整係係長、計画調整係職員
- 5 公開の可否 非公開
- 6 傍聴者数 オンラインのため、傍聴を実施していない
- 7 議事等
 - （1）議事確認
 - （2）議題
 - ・テーマごとの具体的取組について
 - （3）その他
 - （4）次回の予定
- 8 配布資料
 - （1）第4回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録
 - （2）第4回検討委員会での意見

9 会議の概要

(1) 議事確認

委員長より、資料1「第4回(仮称)これからの図書館構想策定検討委員会 議事録」に基づき、議事内容確認

(委員による議事承認)

(2) 議題

・テーマごとの具体的取組について

○ 委員長

本日は、第4回検討委員会にて配布した資料3「テーマごとの問題意識」に基づき、引き続き「1 興味を引き出す工夫・情報の充実」、「2 誰もがいつでも利用できる」、「3 図書館の特色を磨く」、「4 図書館を身近に感じてもらう」、「5 居心地のよい空間を作る」の5つのテーマに即した問題意識について、意見交換したいと思います。

まずは「3 図書館の特色を磨く」に関しまして、特色・特徴を打ち出し、取組を強化するとありますが、こちらについて事務局からご説明願います。

○ 事務局

各館の特色の出し方として併設施設を生かした取組や、また、現在設置している地元ゆかりの著名人のコーナーを、特色としてより捉えられるように周知させるにはどうしたら良いのかなどの課題があります。練馬区の図書館では、各館に定められた収集・専門分担分野に則した収集を行っておりますが、一方で同じような蔵書構成となっております。地域館としてそれで良いところもありますが、専門館として打ち出す場合は、現状の蔵書構成のままで良いのか、稲荷山図書館のように昆虫という特色を生かせる館につきましても、より強化した方が良いのではとも考えます。

○ 委員長

蔵書構成比は、現状としては均質ということですが、そのような方針なのでしょうか。それとも結果的にそうなったのでしょうか。

○ 事務局

結果的にそうなっているという現状です。

○ 委員長

特色を打ち出した蔵書構成にするということに関し、方針の変更は無くても可能なのでしょうか。

○ 事務局

今後、蔵書構成の比率について変更するのであれば、選書の基準等の見直しも必要になると思います。今回、委員の皆さまからいただいた意見を参考に、そのような検討も進めたいと考えております。

○ 委員

地域の身近な図書館として、基本的な蔵書や機能は充実させた上で、プラスアルファの特色になるのではと思います。特色を打ち出せば、今まで利用されなかった方々ももしかすると興味を持って利用するようになるかもしれません。練馬区では、各館の建設時にその図書館の基本構想などを検討する建設懇談会が開かれ、地域住民も参加し、意見を述べ、地域の特色を反映させた図書館が建てられています。例えば、南田中図書館は、環境を特色の一つとして、関連する資料を集めておりますし、図書館で使用する電力の一部を風力発電・太陽光発電で補っております。地域の方との連携は、大変重要なことであり、これが「4 図書館を身近に感じる」ということにもつながるのではと思います。

○ 委員

図書館の特色を磨くということですが、各館では企画展示など、地域の特性を生かした試みを行っているものの、告知が足りないのではと思います。貸出件数のデータ等、既にあるデータの中から、利用者がどのような資料に関心があるのかなどを分析し、関心の高い本をまとめて提示するなど、館独自の特色をPRするのも良いのではと感じます。

○ 委員

このように様々な意見を議論していても、最終的に誰が運営するのか、どう運営するのかという考えに行きつきます。先ほど出た意見にもありましたが、練馬区の図書館の特色とはまさに、建設時から市民・住民が関わり、それが継続できたかできていないか、更にそれを魅力として増強していくのかどうか、それが重要だと思います。各館の特色というのは、第1回検討委員会で配布された資料4「練馬区立図書館の現状について」の中に、建設時のコンセプトや特徴が書かれています。漠然と「どのような特色が出せますか」という問いは、少し難しいので、まずは建設懇談会の話から始まり、その後の現状も含めて、そこにどのように市民が関わり、どのようなことができ、どのようなことができているのか。練馬区の図書館の特色の一つとして、市民参加で図書館が運営されているというところがあると

思いますので、それをまず教えて頂きたいです。また、概ねざっくりとした説明は頂いているのですが、例えば南田中図書館の太陽光発電の話のように、各館の今までの取組や経緯をもう少し詳細に話していただくと、市民目線の意見として具体的な議論がしやすいように思います。議論を具体的にした上で、共通項や方向性、傾向等をまとめあげていく方が良いのではと思いました。

○ 事務局

練馬の図書館は、図書館が無かった時代から、地域ごとに建設懇談会を開催しながら稲荷山図書館でしたら昆虫、南田中図書館でしたら環境、といったテーマを定め、建設を進めて参りました。しかしながら、その特色も広く周知されておらず、また蔵書構成につきましても専門の収集分野があるものの、地域の図書館として広く書籍を収集したいというもあり均質化しつつあります。地域の図書館として、特色を出す専門館ではなく、基本的な資料を揃える図書館が練馬にふさわしいのか、最初のコンセプトや建設時の特色を顕著にしていく図書館が良いのか。電車や自転車を利用してでも、この館を訪ればこういう魅力があると、各館ごとに訪問する価値のある図書館づくりを行えば、これまで図書館を利用されていなかった方にもご利用いただけるのではないかなど、引き続き、図書館の基本的な役割は果たしていきませんが、その中でより専門的な部分を強化させるにはどうすべきかなど、皆さまと意見交換できればと思います。

○ 委員

質問です。この委員会では、各館の全体的な方向性について抽象的なレベルで議論したいということなのでしょうか。

○ 事務局

建設時に、各館に特色を持たせたのですが、それが全体に周知されておりません。特色をより強化していった方が良いのか、それとも区として、地域の図書館として、基本的なサービスの図書館づくりの方が良いのか。皆さんに意見を伺いたいと思っております。

○ 委員

私は、この検討委員会に参加するまで、各館にこのような特色があることを知りませんでした。区のサービスや施設などに関する情報誌「わたしの便利帳」にも掲載されておりませんし、図書館のHPにも掲載されておりません。第1回検討委員会で配布された資料4「練馬区立図書館の現状について」は、各館について大変分かりやすく書かれているので、このような資料を発信すると良いのではと思います。各館の特色が周知されれば、インターネット上で検索するより自分の目で本を選びたいと、バスや電車に乗ってでも行く人が増える

と思います。図書館巡りをしてみようという人もいるかもしれません。

○ 事務局

こちらの資料は、検討委員会のために作成した資料です。今回の意見交換の中で、区民の方に周知できていないということを改めて感じたので、工夫は必要かと思いました。生活に関連する本や児童書等は、各館共通して、地域の図書館として必要だと思っております。一方で、例えば専門的な資料を12館で配分するのではなく、それぞれ特徴を持たせて置くことも考えられます。ただ、それは利用者の方にとって便利なのか不便なのか、そういったことも踏まえて意見を伺いたいと思っております。

○ 委員長

現状のように、どこの図書館へ行っても同じような資料に出会える、均質的な図書館が良いのか、もう少し専門コレクションというものを各館の特色に合わせ構築して、その専門分野に関してはそれぞれの図書館に足を運んで利用してもらおうような、そういった図書館のあり方についても意見を伺いたいということですね。

○ 事務局

そうです。もちろん、新聞や雑誌、区の情報誌等、必要な資料は、各館、身近な図書館としてそろえる必要はありますが、分野ごとの専門的な資料についてもっと顕著にすることで特色を出す方法もあるのかと考えます。

○ 委員

特色を出す目的は何でしょうか。なぜ特色を出した方が良いというお考えなのでしょうか。

○ 事務局

理由としましては、練馬区は緑も多いので、色々な地域の図書館を散策しながら利用していただければ良いのではということがあります。また、専門的に特化しますと、区外の方など新しい利用者も増えるのではないかと考えております。

○ 委員長

練馬区内には図書館以外にも、専門的なコレクション資料等を提供している公共施設があります。図書館単独ではなく、練馬区内の公共施設との連携を強化する中で必要な図書資料や情報資源を提供していくという発想のもと、サービス内容を見直すのも一つの考え方だと思います。

○ 事務局

第4回検討委員会で、練馬区立男女共同参画センターえーるの話がありましたが、石神井公園ふるさと文化館や練馬区の情報公開課等にも数多くの資料が置かれておりますので、そういったところとの連携はもちろん行っております。そこにもあり図書館にもある、そういった整理も含め、より皆さんが利用できるように、また図書館としても新しいサービスが提供できるような仕組みを考えたらどうかと思っております。

○ 委員

貫井図書館は、美術館と併設しておりますので、美術書や図録等、特色ある蔵書構成はすでに行っていると思います。稲荷山図書館は大変不便な場所にあり、昆虫に特化しているとはいっても、子どもや孫を連れて気軽に出かけられる場所にはありません。貫井図書館や稲荷山図書館、南田中図書館等、既に特色を持たせている館もありますが、一方でそんなに特色を持たせられないような館もあると思います。建設懇談会から既に何十年も経っているので、今一度地域の人々の意見を反映させた、新たな蔵書構成を考えていくのはいかがでしょうか。

○ 委員長

前回はそれに近い話として、区民の方が継続的に図書館運営に参画できるような仕組みづくりがあると良いという意見がありました。現在もボランティア等、関わってはいらっしゃるのですが、そうではなくて、意見等を表明して、図書館側もそれをすくい上げられるような仕組みづくりも検討すると良いのではと思います。

○ 事務局

まずは皆さんの率直な意見を伺いたいというのがあります。建設時とはまた時代も変化しておりますので、今ここでこの館はこうだと決めるのではなく、今ある特色をよりブラッシュアップ可能か、また、より区民の方に周知させるにはどうしたら良いかなど、議論できたら良いと思っております。貫井図書館は、美術書の所蔵は多いのですが、なかなかそれが目立っていない部分もあります。稲荷山図書館の特色である昆虫もそうですが、何かあったときに、この館に行ったらこの専門分野が知れるというのがあれば、せっかく作ってきたコンセプトでもありますし、大事にしていきたいと考えました。稲荷山図書館は確かに不便な場所にありますが、講演会や講習会を開くと、全国から利用者が集まってくれます。ただ、それも稲荷山図書館の利用者でないと分からないので、より周知していくことが大事だと思いました。

○ 委員長

第1回検討委員会で配布された資料4「練馬区立図書館の現状について」を見て、はじめて各館の特色を知りましたという意見がありました。それぞれお住まいの近くにある図書館については知っていると思いますが、区内に何館あり、それぞれどのような立地で、どういう特色なのかも把握できると良いかもしれません。現状では、そのような資料は無いのですね。

○ 事務局

各館の特色が分かる資料はありません。練馬区として区民の方に配布しているのは、「練馬区立図書館 利用案内」という資料で、各館と受取窓口の配置地図があるだけです。今回の検討委員会の中で、各館や受取窓口について、周知が足りないのだと痛感しております。「わたしの便利帳」でも、各館の地図と案内は掲載されておりますが、詳細な紹介があるわけではありません。

○ 委員長

全館で一つの練馬区立図書館を構成しているという観点で見ますと、図書館をより身近に感じてもらったり、訪問したことのない図書館に行ってみようという興味を持ってもらうきっかけづくりとしては、例えば、図書館スタンプラリー等を行うというのも面白いかもしれません。子どもたちに図書館の存在をアピールできると、保護者の方も一緒に周遊する機会もできるかもしれませんし、そういう取組もあるのではと思います。

○ 委員

各館それぞれある特徴を、より周知させる方法を考えると良いのではないのでしょうか。委員長の発言にあったスタンプラリーもその一つですし、そういった方法論を皆さんで挙げていくのも面白いと思います。例えば、練馬区図書館のフリーペーパーやウェブマガジンを作るという方法もあります。本とコミックの情報マガジン「ダ・ヴィンチ」のようなイメージで、それぞれの図書館に著名人を招き、インタビューを行う。私の好きな本を語るでも良いですし、各館それぞれの特色にあった著名な先生をお呼びして、自身の研究分野を語って頂くのも面白いかもしれません。それぞれの著名人に合った図書館をチョイスして、各館の特徴とともにその方のインタビューをクローズアップするなど、読み物でPRするのも面白いと思います。フリーペーパーより、ウェブマガジンの方が金銭面的に始めやすいかもしれませんが、そういった一大PR活動をするというのも特徴を出す上で良いのかなと思いました。

○ 委員長

資料3「4 図書館を身近に感じてもらう」において、区の問題意識として、非来館者の方に対し従来のPR活動では不十分ではないかとありましたが、そこにも関わることだと思えます。「4 図書館を身近に感じてもらう」に関して、他にご意見ございませんでしょうか。

○ 委員

図書館でどのようなサービスを受けられるのか、調べたいことについて、どのようなレファレンス事例があるのかなど、過去のレファレンス事例を公開するなどして、ほかの利用者の方がどういった目的で図書館を利用するのかなど、HPや掲示板等で開示していくのも良いのではと思います。実際に、レファレンスというサービス自体を知らない方も多くいらっしゃると思うので、調べたいことがあったときに、他の人がどのような形で図書館を利用しているかというのを周知するののも一つの方法だと思います。

○ 委員長

まさに、それぞれの図書館の特色を反映する部分でもありますね。

○ 委員

先ほど、ウェブマガジンや冊子を作るのも面白いとおっしゃっていましたが、練馬区には日本大学芸術学部や武蔵大学で冊子を作ることを学んでいる人や、武蔵大学にはメディア社会学科といってウェブデザインを学んでいる人たちも大勢いるので、そういった学生たちを巻き込んでフリーペーパーやウェブマガジンを作成するのも面白いのではと思いました。そういったことを行うことで、学生たちは責任を持ってアウトプットできる場ができますし、練馬区もそれを配布することで、クオリティは少し落ちるかもしれませんがコストの削減にもなるのではと思います。

○ 委員長

大学生との協働ですね。

○ 委員

「4 図書館を身近に感じてもらう」取組として、区報の活用という記載がありますが、活用は可能なのでしょうか。というのも、区報は区民にとってもっとも身近なものだと思います。

○ 事務局

限られたスペースを12館で分けるので、大きな行事や講座の周知に活用するのにとどまっているのが現状です。

○ 委員

定期的になると難しいのですね。先ほど意見が出ましたウェブについてですが、ウェブは発信力もありますが、定期的なメンテナンスのためのマンパワーを必要としますし、継続して更新しないと見てもらえなくなります。学生との協働の話もありましたが、継続的にそれなりのケアを考えなければなりません。とある文化施設が、ツイッターに力を入れて成功しているという話を聞いたのですが、今こんなに新しいことをしているという更新を定期的に行っていることと、双方向的に、受け手と送り手のコミュニケーションが成立しているため、人がたくさん集まってくるという事例を聞きました。そういったこともしっかりと見据えながら計画を立ててはいかがでしょうか。

○ 委員長

PRに関しては、幅広い年齢層へ向けたアピール方法として、多様な方法を検討しておかなければならないと思います。公立の図書館としては、どの年齢層の人たちにも利用してほしいというのが当然だと思うのですが、特にこの年齢層の方たちに身近に感じてほしいなど、希望はあるのでしょうか。

○ 事務局

図書館では、生きる上で必要な様々な知識も身に付きますし、世界が広がるという点では、子どもや青少年といった若い層に来ていただきたいという思いがあります。

○ 委員長

練馬区の話に限らず、子どもの読書活動の推進や、中高生の活用促進は良く言われますが、そこに対して働きかける手法として、図書館単体でやろうとしても実はなかなか厳しいのではと思います。むしろそういう側面こそ、学校と連携をしていくのが重要ではないでしょうか。学校と言いますと、どうしても学校図書館や学校図書室の利用に対しては熱心なのですが、もう少し区の図書館をアピールするといいますか、区の図書館を使ってみようという働きかけをしてもらうような、学校との連携を進めていくのも一つの方法ではないかと思えます。

○ 委員

以前、中学校の特別支援学級にいたことがあるのですが、毎年、新学期に光が丘図書館の

スタッフの方が来てくださり、図書館の利用方法等、楽しく教えていただきました。例えば、資料4「練馬区立図書館の現状について」を、練馬区立男女共同参画センターエーの紹介等とあわせて「わたしの便利帳」等に掲載すれば、ありとあらゆる層に周知できるのかなと思いました。ウェブ等を使えない高齢者でも「わたしの便利帳」は見ます。もしくは回覧板でときどき、各家庭に配布される用紙などもありますので、それも活用できるかもしれません。若い人向けにはウェブですとか、学校を通じて配布してもらうなども良いと思います。新聞に掲載されていたのですが、千代田区立図書館では、子ども向けとして、図書館案内全てにふりがなをふっているそうです。そういうものを小学校のPC授業の時などに活用してもらえれば、PCの勉強で図書館のことも知れます。ありとあらゆる層に向け、なるべくお金をかけず工夫したPRができると良いと思います。

○ 委員

図書館に名前を付けるのはいかがでしょうか。各館、既にそれぞれの特徴は際立っておりますので、例えば貫井図書館であれば、「美術図書館」、小竹図書館でしたら「芸術図書館」など、各図書館の体を表す名前があれば、すぐに特色が分かります。もちろん、名前を掲げるといことはそれなりに責任と言いますか、「美術図書館」と言うだけのやり方を工夫しなければなりません。しかし、そんな方法も、手早くなおかつ広範囲に特色を届ける方法かなと思いました。

○ 委員長

資料3「4 図書館を身近に感じてもらう」の区の問題意識にある、非利用者の方に身近に感じてもらうという意味では、電子書籍や電子図書館サービスというのも一つの手法だと思います。もう少し時間が取れば、みなさんとやり取りしたいテーマではありますが、また時間のある時に意見交換できればと思っています。

続きまして「5 居心地のよい空間を作る」に関しまして、事務局よりご説明願います。

○ 事務局

近年は、滞在型図書館が増えている傾向にあるというのもありまして、静かに本を読みたい方がいる一方、学び合いのための話が自由にできるといった様々なニーズに応え、ハード的にもソフト的にも、居心地の良さを演出するような取組をしている館が数多くあります。これからの新しい図書館は、誰もが気軽に利用できる図書館を目指したく、「5 居心地のよい空間を作る」というテーマを設定しました。図書館は静かにしなければならないイメージがあると思いますが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○ 委員

メリハリが大事で、静かにする場所と音を出してもいい場所、セミナーなどイベントを行う場所、それをはっきりさせれば混在して良いと思います。むしろ、どちらか一方という方が良くないと思います。

○ 委員

近年の動向で言いますと、大学図書館では、全国的にラーニングコモンズを整備しようという流れが広がっており、アクティブラーニングに対応して、グループワークやディスカッションができるスペースを図書館内に設けています。静と動、それぞれの利用者が目的に応じて利用できるように、両方の空間を整備しています。あらかじめ静と動の空間分けがしっかりできていると、共存できるのではないのでしょうか。特に大学図書館や学校図書館はそのような方向性に向かって整備していこうという流れになっています。これが地域の図書館で共通理解として得られているかということ、まだまだそうはなっていませんが、そのような方向性で整備していくというのも一つの考え方だと思います。

○ 委員

3月末に開館した「板橋区立中央図書館」は、しっかりとしたすみ分けができていました。1階はポローニャ絵本館をメインに、児童が話したりしながら利用できるフロアで、2階は青少年と一般の方がカジュアルに本を探すフロア、ティーンズルームやグループ学習室もありました。3階は、階段を上がっていくと自然と静かにしないといけないと感じてしまうような、こげ茶色の本棚に落ち着いた照明で、調べ物をするフロアでした。ただこれを練馬の図書館にどう反映させられるかと考えると難しいですが、どのようなすみ分けにするか工夫して、どの利用者也居心地が良いと思える図書館になれば良いと思いました。

○ 委員長

一般的な大学生に、図書館についてどう思うか問うと、「堅苦しい」と多くの学生が言っていました。それはなぜかということ、静かにしないといけないからです。若い人たちにとって、利用する上で「静かに」というのは大変ハードルが高いんですね。あとは学校教育の弊害もあると思います。学校の図書室へ行くと「静かにしなさい」とよく言われます。図書館が静かというのは、日本では当たり前になっていますが、世界的には必ずしもそうではありません。それを一気に変えるのも難しいですし、静かに過ごしたいニーズもあります。両者をどう共存させるのかということが難しいところでもあります。

○ 委員

委員長に質問です。外国も含め、狭い空間の活用例として、例えば時間差でこの時間は静

かな時間、この時間は話してもいい時間、あるいは曜日等、分けて運用しているような例はあるのでしょうか。場所の問題はどうしてもあると思うので、考えられることとしては時間差、あるいは曜日、夏休み期間等で分けて運用するなど、普段静かにしている空間が声を出してもいい空間に変わるのも、個人的には楽しいのではないかと思います。

○ 委員長

時間差というのは、聞いたことが無いです。副委員長はいかがでしょうか。

○ 副委員長

私も時間差は聞いたことが無いです。静と動のスペースを分けるという話になると、どうしてもスペースが足りないということになるので、時間差はいいアイデアだと思います。静と動、両方ともイコールでなくても良いので、1週間のうちこの時間だけは自由に話しても良いというのも一つのアイデアとして面白いと思います。ただ告知が行き届いてないと、静かにできると思って来たのにということもあるかもしれません。

○ 委員

プールの休憩時間のように、時間になるとお知らせがあったりすると良いのかなとも思いました。

○ 委員長

時間帯により、利用者層が違うと思います。平日の昼間は比較的高齢の方や、静かに読書したいニーズの方が多いと思いますし、一方で放課後になると子どもたちが声を出したいというのがあるかもしれません。図書館によってはBGMを流しているところもあります。ちょっとおしゃべりしてもいい時間になると、音楽が流れるというところで、その時間を利用者にお知らせするなど良いかもしれません。

○ 委員

時間のすみ分けということですが、喋りたい、みんなで話したいなどの要望は、子育て層から出てくることが多いと思うので、例えば土日は話しても良いなど、部分的に変えていくのが良いのではと思います。夜などは、ビジネスマンがPCを使用しているのですが、キーボードをたたく音も相当大きいです。ですので、一概にしゃべるということだけでなく、音を出しても良いということも併せ、夕方や土日は少し音を出しても良いとか、ちょっとずつ始めてみるのも良いのではと思いました。

○ 委員

現図書館の、利用実態の調査データ等はあるのでしょうか。建築の世界で言いますと、現状として公園や歩道等のパブリックスペースがどのように利用されているかを調べ、そこからどのような整備のあり方があるかを考えます。かつては道路に車が何台通り、ゆえに道路を広げる必要がある、もっと道路を増やす必要があるという議論もありました。同様に、図書館でもどんな利用者がどのような目的で利用しているのか、どこに課題があるのかなど、各館の図書館の大きさや使う層によってもそれぞれ特徴があると思います。もしそのような調査をしているなら、それを開示していただければ考えるヒントになるのかなと思います。もし無いのであれば、そういうことをやってみるのも面白いと思います。

○ 事務局

統計的な調査を基にしたわけではありませんが、ニーズの反映として、関町図書館には青少年が使えるグループ学習室、石神井図書館には、奥のスペースに子どもが話しても良い児童室を設置いたしました。ほとんどの図書館の傾向として、開館と同時に閲覧のスペースはいっぱいになり、そこで新聞や雑誌を閲覧する方がいて、その隣に、塀や壁などが無い部分で、多くの図書館がPCが使えるエリアがあるというような、一つの空間を共存しながら利用しています。時間帯によって分けるという意見もありましたが、平日の午前中には高齢者の方と、子ども連れの方もいらっしゃるの、片や静かに本を読みたいという方、片やお子さんに本を読んであげたいという方が共存している時間です。その時間帯に、乳幼児向けの事業等を会議室や視聴覚室等で空間を分けて行っておりますが、普段、席に座りながら子どもに本を読んであげたりできるといった環境には今ありません。館によって微妙に傾向は変わりますが、夕方は、最近、小中学生は塾などもあり意外と少なく、仕事帰りの方が多く訪れます。土日は、家族連れの方が多いです。数の統計まではとっておりませんが、傾向としてはそういった感じです。

本日、欠席の委員から、「5 居心地のよい空間を作る」に関しまして、意見を頂戴しました。「カフェスペースやくつろげるスペース等があれば、さらに居心地の良い空間になると思います」とのことです。

○ 委員長

カフェスペースというのは、リアルなカフェでしょうか。あるいは、持ち込み可能な飲食スペースということでしょうか。

○ 事務局

そこまでは分かりかねますが、昨年リニューアルオープンした「杉並区立中央図書館」は、においが漏れないよう、図書館とは別のスペースにカフェスペースを設けていました。また

昭島市「アキシマエンス」でも、サンドウィッチ等の軽食が食べられるようなスペースがありました。第1回検討委員会での意見にも、くつろげる空間、本を読みながらお茶が飲めるといった話も出ていたかと思えます。

○ 委員長

武蔵野市「武蔵野プレイス」も、1階の真ん中がカフェになっています。基本的に、1階は雑誌などがメインなので、がやがやしていても違和感ない空間づくりになっています。

○ 委員

「板橋区立中央図書館」も、カフェが併設されていました。また、各フロアに居心地の良さそうな椅子も置かれていました。練馬区の図書館では、カフェはなかなか想像しづらいところがありますが、例えば居心地の良いソファを置き、そこでくつろいで本が読めるなど、飲食だけでなく、そういうスペースを設けるなどはいかがでしょうか。

○ 委員長

ちょっとした工夫でできることもあるかもしれません。居心地の良さも、人によって様々なので、委員の皆さまが考える居心地の良さでご意見いただければと思います。逆を言いますとそういう多様な捉え方をどう生かしていくのかというのも、練馬区として非常に悩ましい部分ではあると思います。

○ 委員

施設面になってしまいますが、子どもの頃、図書館は好きだったのですが、トイレがすごく古くて暗くて怖くて、図書館に行くこと自体が嫌になった時期がありました。練馬の図書館も施設として古いと思いますが、トイレも古いという印象を受けたので、子どもなどは怖い印象があるかもしれません。きれいで明るいトイレというのも、図書館として居心地の良い空間を作るところではあるのかなと思いました。

○ 事務局

「2 誰もがいつでも利用できる」に戻りますが、受取窓口の増設について、学校図書館のほかに、区立施設等を活用できないかと考えております。何かその点でご意見があればいただきたいと思えます。

○ 委員

高野台の街かどケアカフェや、区民館など、高齢者の利用が多いので、受取窓口を設置するとあまり遠くに出歩けないシニア層には便利かなと思います。

○ 委員

練馬区内で衣料品の回収等を行っている施設があります。月に何回か衣料品のリサイクルの回収を行っており、いろいろ問題はあるのかもしれませんが、そういう施設にいらっしゃる方に向けて、既存のサービスとともに、返却ができるようなサービスもあると良いと思いました。

○ 委員長

福岡県の筑後市では、市の商工会議所と図書館がコラボして、地元の商店街で買った商品の無料お届けサービスを活用し、図書館の本をご自宅に無料でお届けするというサービスを行っています。練馬区では難しいかもしれませんが、地元の商店とコラボして受取サービスを展開するというのも一つの考え方かと思います。区の公共施設の中だけで運用するのではなく、そういったやり方も他自治体の取組を見ているとあるのかなと思いました。

○ 委員

現在、受取窓口で予約本の受取は可能ですが、自動予約貸出機のような機械化は難しいのでしょうか。返却は返却ポストに入れ、予約本の受取りを機械でできれば、利用者も増えるのではないのでしょうか。

○ 委員

子どもの頃、移動図書館をよく利用していたのですが、練馬区は無いですね。

○ 事務局

練馬区でも、移動図書館を導入していた時期もありましたが、平成 17 年度に廃止になりました。地域の中に 12 館の図書館と受取窓口が設置され環境が整ったこと、また車のメンテナンスや展開する駐車スペース等の理由からです。廃止した代わりに、学校図書館や各施設に団体貸出をしております。

○ 委員

それは練馬区として、移動図書館が無くても十分だと思ったからですか。それとも利用者があまりいなくなったことで廃止になったのですか。

○ 事務局

どちらの理由もありますが、徒歩 1 キロ圏内に図書館を整備したこと、それと併せて 6 か所の受取窓口を設置したことで、移動図書館の利用者が減ったこと、また、予約本の貸出が増えたこともあります。あとは、車を駐車して展開する場所も減ったということも要因です。

○ 委員

移動図書館が廃止された理由はいろいろあると思いますが、高齢化社会により、なかなか図書館に出かけるのも大変だという方も増加する中で、「4 図書館を身近に感じてもらう」ということでは、移動図書館の活用も必要なのではないかと思います。また、練馬区ではまだ図書館空白地帯というのもあります。維持するのも大変だとは思いますが、身近に感じてもらうためには、移動図書館は古いようで新しいのかなと思いました。

○ 委員長

アウトリーチの手法として、移動図書館は今でも重要な手法として、全国各地で行われています。もう一つの考え方として、宅配サービスのような手法を整備していくという視点もあるかもしれません。現在、練馬区では障害のある方には郵送サービスを行っていますよね。

○ 事務局

障害者サービスの一環として、郵送サービスを行っております。また、介護認定のある高齢者の方等への郵送サービスも行っております。

○ 委員長

要介護ではないが、移動がづらい高齢者の方も利用できるような形での拡充等、可能性はあるのでしょうか。

○ 事務局

個人宅への郵送は行っておりませんが、高齢者施設や、皆さまが集う場所に図書館員が訪問し、貸出等は行っております。本日いただいた意見を参考に、検討していけたらと思っております。

○ 委員

板橋区では、買い物弱者に対し、軽自動車による移動スーパーのサービスを行っています。部署間との連携も必要になってくるとは思うのですが、買い物弱者への支援と一緒に本を届けることもできると、より良いのではと思います。図書館の空白地帯が減っているとはいえ、徒歩1キロ圏内というのは、実際の生活者からするとスケールに少しずれあると思います。図書館として、図書の貸出だけでなく買い物弱者に対しても、民間事業者をサポートすることで持続的なサービスとしてつながっていくのかなと思いました。

○ 委員長

図書館単独ですとコストの問題等も出てきますが、民間事業者とうまくコラボして届け

るような仕組みが作れると良いですね。

「1 興味を引き出す工夫・情報の充実」の区の問題意識として、肥大化する図書館の役割の整理に関してはいかがでしょうか。

○ **事務局**

図書館では区民の皆さまの役に立つような様々な事業を行っておりますが、他部署でも同様の事業を行っているところもございます。そこで、図書館だからこそその事業とはどのようなものか、何かご意見ございましたらいただきたいと思っております。

○ **委員長**

他部署と同様の事業というのは、具体的にどのようなものでしょうか。

○ **事務局**

例えば、高齢者のフレイルを予防するような、介護予防の事業です。図書館でも行っているのですが、高齢社会対策課等でも同様の事業を行っています。図書館の事業に参加するのはハードルが大変低いと思われまますので良いとは思いますが、図書館だからこそ行った方が良い事業があれば、そちらを優先してやるような考え方もあるのではと思っておりました。

○ **委員長**

図書館が行っている講座・催し物の年間スケジュール一覧のようなものは作成されているのでしょうか。

○ **事務局**

事業として一番多いのは子ども向けなので、子ども向け事業に関しては、定期的に行事予定を作成し配布しておりますが、年間スケジュールのようなものは作成しておりません。読書週間に行っている子ども事業は、区報や教育だよりに掲載しております。ただ、大人向けの事業に関しましては、各館ごとにお知らせはしておりますが、こちらも年間スケジュールとしては作成しておりません。介護予防や、医療に関すること、図書館が主体になって行っている事業も多いのですが、もっと図書館ならではの事業に特化した方が良いのではないかと考えていると思っております。図書館に求められるニーズが増えてきているところで、どこに根幹を置くべきかご意見がありましたら、教えていただきたいと思っております。

○ **委員長**

他部署と似たような事業を行っているのであれば、連携して共同事業にすることで図書館側の負担を減らし、新たに図書館オリジナルの、利用者から求められるような講座等を開

催するというのも考え方としてはあるのではないのでしょうか。高齢者介護に関しては、図書館でも、高齢者に関係する部署でも行っていて、お互いそれほどリンクしているわけではないということでしょうか。

○ 事務局

連携して行っている事業がほとんどなのですが、図書館を場所として提供しているだけになっているのでは、というのが正直な感想です。それでも多くの方に来ていただき、講座に関連する資料の展示や貸出を行っているのですが、他にも工夫があるのではないかと、また、図書館側から、もっとこういうテーマを取り上げたら良いのではないかなど、働きかけができないのかなと考えます。

○ 委員

指定管理館がかなり増えたことで、様々な年齢層に対し、幅広い分野の講座や企画が行われていると思います。もちろん地区区民館で行えば良いのではなど、様々な考え方もあるとは思いますが、図書館に行けば、例えば美術展の講座や俳句、合気道の講座、税金等、生活に密着した講座などがたくさん行われています。図書館で開催されることで、そのような幅広い講座が本につながるようになっていて面白いと思うので、あまり限定しないで事業を行ってほしいと思います。

○ 委員長

「4 図書館を身近に感じてもらう」でのPRの話にも重なりそうですが、その図書館に行かないとイベントや講座があるという情報が得られないというところを改善し、もっと広く発信していくというだけでも新たな参加者の増加や、図書館ってこんなこともやるんだということを知ってもらうアピールになるのではと思います。そのあたりをうまくPRに生かしていけるといいと思います。

○ 委員

子どもがまだ小さい頃、平和台図書館で布の絵本製作講座があり、作ったものを寄付していてとても面白い試みだと思いました。関町図書館には本を共通項とした読書会というものもあるそうで、他の館には無いのでしょうか。各図書館でももし発信場所としてあったら良いのではと思いました。

○ 委員

大学では最初に図書館の利用の仕方の講座やツアーがあるのですが、そういうことは練馬区ではやっていらっしゃるのでしょうか。

○ 事務局

図書館ツアーは不定期ですが、お子さま向けや一般向けとして、利用の仕方やバックヤード見学などを行っております。また、読書会は、南田中図書館や大泉図書館でも行っております。布の絵本は、地域のボランティアの方たちと今も協働で、各館で製作し収めて頂いております。これまでの意見を伺い、やはりPRというところで全体に広がっていないのだと改めて認識いたしました。

○ 委員長

残り時間もわずかとなりましたので、皆さま一言ずつお願いします。

○ 委員

石神井ふるさと文化館では、いつも興味深い事業を行っています。それがもう少し生活圏の中で、地域の図書館のような範囲内で地域のことが知れる事業であったり、地域の資料を見られたりと、その活動がまちづくりにつながるようなことができれば良いと思います。石神井ふるさと文化館は、練馬区を中心とした情報や資料が集まっておりますが、地域の人たちはそういった深い情報や資料というよりは、もう少し身近な、生活を行っている中で地域のことを知り、どう改善していくべきかの情報を得たり、集まる機会があると良いと思います。併せて、大学図書館というのは地域の壁を超えたつながりがわりとスムーズにできます。図書館でも、地域のまちづくりをしていく上で、地域のことだけでなく、例えば九州の街ではこの問題はどうなっているのだろうかなど、資料の取り寄せ等を通じ、様々な地域の知恵が図書館のネットワークの中でつながることができれば、グローバルの世界の拠点のようなことになるのかなと思いました。

○ 委員

図書館として、いろいろな問題がありますが、その悩みもマンネリ化している気がします。図書館ブームを巻き起こすような、一大ムーブメントを起こしてしまえば、すべて解決する可能性もあるのではないのでしょうか。次回以降、どんどん斬新なアイデアを出していけば良いと思います。

○ 委員

様々なことを行っているにも関わらず、周知されておらず、知らないことが多かったので、皆に知らしめるというのがとても大切だと思いました。

○ 委員

図書館を、静と動に時間で分けるというアイデアが面白いと思いました。

○ 委員

図書館は対象が広いので、他部署との連携は大切だと思います。場所貸しとしてでも良いと思います。そしてそれらの講座を録画し、図書館が保存してバックナンバーとして貸し出すことで図書館の存在意義を示せたら良いのではと思いました。

○ 委員長

YouTube チャンネルを作り、配信しても面白いかもしれませんね。

○ 委員

すでにやっているかもしれませんが、布の絵本に関し、ボランティアの人が寄付するだけでなく、ミニ講座のような、1日程度でいいのでボランティアの方に講師になってもらう講座はできないのでしょうか。そうすることでまた、図書館に所蔵されている布の絵本にも興味を持ってくださる方がいるかもしれません。また、図書館スタッフの方は、皆さんが本の楽しさの伝い手だと思います。いろいろな経験もあると思いますので、先ほどあった一大ムーブメントといいますか、本を読んだ成功体験や楽しい体験をみんなで共有し、みんなで発信者になろうというような、図書館がそういう場所になればいいと思いました。

○ 委員

既存でいろいろなサービスが行われていると思うのですが、もう少し能動的な働きかけの工夫をする時期にきているのでは強く感じました。利用者層は幅広いと思いますので、すべてのニーズに一つの方法で対応するというのはなかなか難しいのかなと本日の意見交換で感じました。ただ、それぞれ皆さんいろいろなアイデアをお持ちで、一つ一つ実現していけないと、すべての利用者に声を届けるのは難しいと思いますので、もうひと段階、何かいいアイデアを出していきたいと思いました。

○ 委員

今日、感じたのは、やはり皆さん図書館で行われていることをあまり知らないんだなということ。図書館の魅力的なPRをすることがすごく大事なのかなと思いました。意見が挙がった、大学生を巻き込んだウェブマガジン制作などはすごく良いと思いましたし、新鮮な意見でした。高齢者は機械に弱いとか、ウェブマガジン等はあまり利用しないと思われがちですが、コロナ禍のこの1年で、私たち高齢者も慣れざるを得なくなりました。これまでは若い層はこれで良いけど、高齢者はちょっと、というのが、コロナ禍で少しウェブなどにも慣れたということも踏まえながら、PR方法も考えていけば良いかなと思いました。

○ 副委員長

非利用者の方に図書館のサービスを知ってもらうのももちろん大事なのですが、現利用者の方へ向けても、図書館のサービスや、この図書館ではこのような資料を所蔵し、データベースを活用するとこのようなことを調べられるといった情報を、区役所にあるデジタルサイネージ等を利用して流したりすると、目を引くのかなという気がします。あとはあまり図書館に来ない中高生の層は、写真を通して交流する傾向がありそうなので Instagram 等の SNS を活用して PR したら面白いと思いました。

(3) その他

(委員による質問・意見無し)

(4) 次回の予定

閉会